

郡上郡へ縄文土器が流出したようす (佐藤とき子作成)

二・三号古墳の出土品を展示しました。福田一号・二号古墳の出土品は、岐阜県の重要文化財に指定されております。

奥のケースには、大凡使われた年代順に配列してありますが、一つの遺跡に長い年月に亘る遺物が出土していたり、所蔵者毎に、混じらないように展示した関係で、完全に年代順とは言えないところもあります。

一番右のケースの収めるアンモナイトの化石は、昭和五八年に徳永釜淵の河床から出土したもので、美濃帯と呼ばれている地層から出土した唯一のものであり、美濃帯の年代を決定する

決め手となった学術的にも大変重要なものです。

同じケースに収めた黒曜石製の有舌尖頭器（ゆうぜつせんとうき）は、落部中屋の畑で中学生により地表採集された、大和町出土品中最古の遺物であります。これら小型で特に重要なものは、赤やグリーン系の布を張った小さな台に乗せ、目立つように展示しました。

展示品のうち前記福田古墳出土品の外、徳永薬師平出土の七鈴五獣鏡、栗巣竹継出土の御物石器、東林寺跡出土の懸仏（これらは都合により現在は展示してありません）などは岐阜県の重要文化財に指定されており、その他の展示品は郡上市指定の重要文化財であります。紙面の都合で、この外の出土品については詳しく触れることは出来ませんが、大和町にとって大変貴重なものであることは強調しておきます。出来るだけ大きい文字で、出来るだけ丁寧に解説致しましたので、じっくりご覧いただけたいと思います。

次は文書関係についてです。

年表に続く壁面には、剣宿の高札場に掲示された大高札三点と、高札・板札等を展示しました。大高札は天和二年（一六八二）に発せられたもので、高札としては初期のものです。

一番奥の壁面には、則次家の「宝曆騒動」関係文書のうち、額に収めて日頃部屋に飾っておられたものを額ごとお借りして展示しました。なお中央には騒動の間、飛脚の大役を勤められた、ご先祖・東俣村三郎右衛門の遺品を、特にお願いして展示しました。

文書ケースには、右から大坪家文書。市指定の東家系図を初め庄屋文書九八点の中から一五



オープン当日の参観風景

点を展示しました。次に牧区文書ですが、牧区には代々の庄屋文書、戸長文書、区長文書が大切に保管されています。その内一三二点が指定されていますが、その中から一五点を展示しました。左のケースは田代家文書。寛永一九年（一六四二）の大飢饉の「免稅覚」に始まり、宝曆騒動文書など指定四四点の内、十五点を展示しました。中央の丈の高いケースには、明建神社神社文書（指定五七点）の内、元禄六年（一六九三）の「祭礼之覚」、「妙見宮縁起」、拜殿の設計図等を、栗飯原文書（指定二四点）からは神主家に関する文書、「万留帳」全一二巻等を展示しました。則次家文書は指定九九点全部が宝曆騒動関係

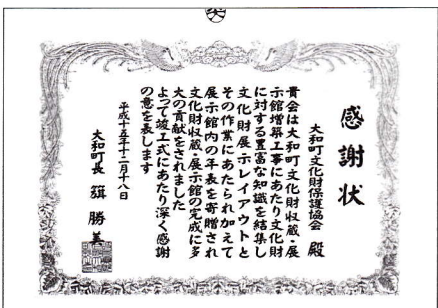
文書で、騒動に関わった人たちの肉筆の書簡・冊子ばかりです。長い物が多いので、大型ケースの床面に展示しました。

大型ケースには応徳寺、恩善寺、西念寺、清浄寺、正信寺所蔵の由緒ある絵像・名号ばかりで、しかも平素は大切に収納されていて、ここでしたか拝観できないものであります。

以上展示の概略を書きました。詳しくは「大和町史通史編・上巻」（昭和五九年刊）および「大和町の文化財」（平成七年刊）、CD「大和町の文化財」（平成一三年発行）などをご覧ください。

なお、この展示に際して、佐藤とき子氏にご尽力をいただきました。また松井町民学習課長さんには多くの無理難題を快く受け止めていただきました。改めて両氏に衷心より感謝申し上げます。

最後に、大和町の明るい未来のために、この施設が町民の皆さんに広く活用されますようお願いいたします。



大和町からの感謝状

飛驒の匠をたずねて

日置康夫

郡上の隣にありながら、下呂温泉、高山祭りなどの行楽先の外はあまり知らない、なじみの少ない、俗に云う近くて遠いのが飛驒である。

今回「平成十五年十一月十二日の日帰り研修」の案内をいただく。順路は上呂より久津八幡宮を始めに、飛驒路縦貫の、名利・旧跡を辿る、よく検討され練られた研修計画である。

別けても見学最後の国府町安国寺に関心と期待をもつ。古代に国ごとにおかれた役所名が国府という。今も町名としていき

続けている重い歴史の地、古川盆地に建てられた安国寺、やすらぎと穏やかな響きを持つ「寺号」に、他愛もないといえばそれまでだが、些かの思い入れがある。

坊主でありながら徳川方に与

し、大いに権謀術数を用い暗躍した怪僧、その名も安国寺恵瓊、かれの所業からして相応（ふさわ）しくない「安国寺」を用いた坊主「恵瓊」が許せなかった少年の頃の遠い昔が蘇（よみがえ）る。

安国寺について。室町時代初期將軍足利尊氏、弟の直義が時の天皇に請い、国ごとに一基の塔を建て、利生塔と名付け、さらに国ごとに安国寺を建て、後醍醐天皇の冥福と天下泰平の祈願所とした。飛驒においては、貞和三年（一三四七）の創建と

ある。しかし天文・永祿年間に兵火により祖堂、経堂を残し安国寺の建物は焼失した。経堂は今より六百年前、室町初期応永十五年の建築。その製作手法と文化的意義が深いとされ、国宝に指定された。

に指定された。

殊に経蔵の中にある八角輪蔵（今日的に云えば、回る本棚）は八つの面に柵目形に仕切られ、分類と取り出しを容易にし、輪蔵を軸部から八方に出ている木鼻を強く押すと、クルクル回る仕掛けとなっている。彩色から中国様式そのものの印象をもつ。

中国より持ち帰った蔵版を五三九七巻納めたとある——参考文獻『国府町の文化財』より。創建の時より大勢の僧侶が経本を手に入出し、盛大に供養が執り行われたであろう。やがて衰えを見るようになると、この貴重な経蔵の存在も子供たちの格好の遊び場となり、経本も粗末な扱となり、時には破られ、鼻紙となつたと案内僧は云う。

諸国統一を成した足利尊氏、利生塔・安国寺を建て、追善供養と和平を願う。戦に明け暮れて乱世を利し安堵する。我に省みて、平定のおとの治世の戦略ばかりでなく、深い人間回帰の道をとどった善行の所産ではなからうか。

しかし「皇国史観」は彼に反逆者の烙印をおして、実像は伝わっていない。少なくとも我々

の世代は、そのようである。

高山市に移築された照蓮寺。

このお寺さんは、徳永恩善寺のお祖母さん出生の寺として親しい思いがする。

庄川筋における本山的存在として、名刹の誉れ高い。移築の時屋根の勾配を低くしたとある。元々そうであったようで、豪雪によく耐えたものと思う。深い

舟の描いたとされる禅僧の姿に、魅せられたとゆうより疑問をもって時間を費やし、バスに遅れる失態である。

いつも研修で思うことは、見学は時間に追われて、見るだけで素通りする。帰ってからゆくり参考文獻を読んで反芻（はんすう）すること、これがよいのではなからうか……



水無神社にて

2004年春 新潟

本川 喜代士

新潟県長岡市は私の母の故郷です。長岡の奥座敷と云われてきた蓬平(ヨモギビラ)温泉には三軒しかない旅館の一軒が私の親類筋にあたり、おかみさんと親しくなって何回か訪れた場所です。ひと頃ブームになった地酒人気で幻の酒、越の寒梅や雪中梅、八海山などがいつても飲め、冬には雪の中の露天風呂など、会社の連中を連れて行って喜ばれた所です。東京から手近な距離で、隠れた温泉地としても人気があり、老舗や大形旅館倒産等からも免れて、本当に久しぶりの再訪でしたが、建物も改築されて大きくなって居り嬉しい限りでした。でも何度も通った蓬平で、全然別の旅館に泊まったのは初めての経験でした。

親鸞聖人の生涯で最も謎に包

挟んで、親鸞一行の銅



五智国分寺三重塔

野信州の旅では残雪に輝くアル

像がある国府別院、流罪を許された時の御満悦御影のある光源寺、五智国分寺、親鸞上陸地の居多(コタ)神社では、片葉の葦の群生地があるとか。一日目はここで終わりました。二日目は、国の重要文化財に指定された木像親鸞聖人座像の西照寺、つなぎ榎の了玄寺、焼鮎の田代家で午前中は終りふるさと村での昼食後、倒枝(サカサ)竹の西方寺、豪農の館・伊藤邸と、八房の梅・数珠掛け桜の梅護寺、三度栗の孝順寺で親鸞様の見学・実習は終わりました。我々の団体名の影響でか、何処でも時間を気にするくらい丁寧な説明で、男性の住職ばかりでなく、奥様なのか女性の話しぶりも堂に入って居り、感心させられました。なかでも異彩を放っていたのは、五智国分寺の住職で、紙の色を変えた何種類かのチラシを用意し普段と変わらない飾らない格好で、ユーモアをまじえながらの話は、古い三重の塔のある寂れた感じの庭を含め、私には一番印象に残りました。

親鸞さんの一代はガイドさんの説明も聴かせました。例によって今回も後藤和代さんで、この方の偉いのは我々の旅行前にいつでも図書館で下調べをしてくる点です。残念ながら今回の後藤さんは風邪で声が出ず、選挙運動の直後の感じで、初の市長市議会議員選挙の翌日、バスの中では中日や岐阜新聞の号外も回覧されたりしましたが、妙なミスマッチにクスリとさせられたものです。驚いた事に、声が出なくても後藤さんは話を聴かせてしまいました。ノート数頁にわたって纏めた文章は見事なもので、殊に恵信尼が親鸞さんと結ばれるくだりなど聴かせどころでした。もう少し後藤さんですが、この方との旅には、いつも印象的なシーンが重ね合わされてる感じが致します。長

プスの遠景、我々の見学直後、本堂の全焼があつた虎溪山では見事な紅葉の彩り、そして今回は、森山直太郎の歌と同じ題名の「さくら」でしょう。三寒四温の温度差が激しかったこの春、四月中旬の新潟地方は桜前線



西照寺



親鸞聖人配所の碑

皆さんの感激振りが我々を更に
いっそう嬉しくさせたものです。
三日目は比較的ゆっくりした
ペースになり、市島邸が都合で
市島酒造に変わり、次いで清水
園の足軽屋敷は私の好きな藤沢
周平の海坂藩の世界、山形酒田
行きが募らされた感じ。

この説明者はシルバークイ
ド風の男性、手慣れた解説に何
処よりも一番笑われました。
そして見学か所の最後は弥彦神
社、ここが今回の記念撮影場所
になりました。

さて三日間で何処が一番印象
に残ったか、親鸞さまには悪い
のですが、私は伊藤邸の、北方
文化博物館を挙げます。日本一
の豪商の形容には色々あります
が、いつでも従業員が50人以上
居り、朝食後すぐに支度を始め
ないと昼食が間に合わなかった
とか、もう純粋な日本種は絶滅

寸前の朱鷺の剥製をはじめ、さ
りげなく置かれていた古九谷や
古伊万里等一つひとつ写真に収
めていたらキリがないし、三角
の柱や菱形の畳で出来た独特な
茶室の三楽亭など、ここでしか
見られないものも数多くありま
したが、会津から運んだという
「30層の一本杉の丸桁」を張り
巡らした廊下越しに眺めた庭園
は、とても私のカメラには収ま
り切れませんでした。

三回の昼食で一番美味しかった
のは初日の鱧(キス)屋でし
た。地元魚沼産のコシヒカリと
日本海獲れたての魚料理はそれ
だけで充分でした。翌日のふる
さと村ではお土産を選ぶのに苦
劳しました。ここでは何名かの
人が抽選で「越の寒梅」の4合
瓶が安く買え小銭入れしか持っ
ていなかった私もそれに当たり

慌てさせられました。名産品は
数が多く、熊笹の葉を使用した
ちまき、ささ団子、小泉首相で
人気の出た米100俵には落雁
風の甘い菓子があり、柿の種、
すき焼きの具に最高の車麩(ク
ルマブ)などですが、私が子供
の頃長岡から田舎の誰かが上京

の度に弁当で必ず残してきた
真っ白い白米に紅色の梅干しの
入った海苔で巻いた大きな「お
にぎり」が私の新潟のおばあ
ちゃんの味でした。三日目は魚
のアメ横・寺泊、ここでは発砲
スチロールに氷詰めされた水産
物が何kg我々のバスに積み込ま
れたのでしょうか？ 新鮮で安い
魚は煮ても焼いても美味しく、
お土産として方々に配られたで
しょうから、旅の幸せが数多く
分散された筈です。

弥彦さんから寺泊までの途中、
分水町の大きな堤防沿いの桜並
木の何kmかを、わざわざ見物す
るためだけに回り道しUターン
して往復してくれました。そし
て長良観光のバスは最後にもう
一つのサービスを用意してまし
た。この地方で最大の話題の人
は田中角栄さん、我々にはマイ
ナスのイメージ大の人でしたが、
地元西山町の人々の中には神様
の様に思う人も多かったのだ
でしょう。寺泊から西山インテ
ルに入る直前で、角栄邸の前を

ゆつくり徐行し「田中真紀子、
細木直紀」連名の表札を見せ
てくれました。日本列島改造論で

日本のトップに立った角栄さん
への地元民の想いを語る後藤さ
んの解説は、親鸞聖人一代記と
共に、ノートのメモをコピーに
して頂戴したいくらい温かさに
充ちて居りました。

高速に入ってから滝日さん
のテープでした。林医院院長さ
んのお友達で京都のお医者さん
の人生談、ユーモアたっぷり
日々感動と感謝を忘れないで欲
しいという話でした。カセット
テープですので目を瞑って聞け
ましたが、準一さんは、出掛け
た直後、御母衣湖あたりから帰
りもご自分の勉強資料を配られ
たり、終始一貫、孤軍奮闘とい
う形でした。

行く先々で丁寧にビデオカメ
ラを回し、立派なテープに纏め
て希望者に配るのを楽しみにし
ている方、大きな荷物を抱えて
が多かった様に思います。お菓
子なんかよりもと数珠を土産に
何個も買い占めた人、朱印帳を
埋めるのに一生懸命の人、意外
な人がカラオケの腕をあげ仲間
と練習する様子を楽しそうに話
してくれました。みんなそれぞれ

れに楽しめばいい、気の合った
人達との旅は本当に楽しいので
すから。

最後に幹事の有代さんが締め
て下さいました。「行く時と帰っ
て来た時と皆さん無事に帰れた
のは本当に嬉しい。ご協力を感
謝します。」この言葉は参加でき
なかつた方々へのメッセージに
も聞こえました。今回は色々な
理由で不参加者が多く、いつも
のメンバーと様子が少し違っ
て居りました。声が万全でなかつ
た後藤さん、そして山本さんを
含め、次の回は今回以上に多く
の方々が、元気に参加される事
を、心から望みたいと思います。



弥彦神社にて

文芸欄

短歌

妙見大門の神杉

土松新逸

夕日背にみどり伸びたる神杉は
わがふるさつを見守りたまう

妙見の桜の下に並びたる
祭りの列に寄りて来る友

神帰り杉のふもとに語りたる
老友の顔今日も笑みかく

かけ踊り田打頭に並びたる
友の笑顔は今は無き面^{おも}

かけ踊祭りの列は打ち出して
神杉の下お宮へ向かう

相並び神杉の下に打ち出せし
田打頭は少年の日の友

かけ踊り田打ち頭と並びたる
老友の笑顔寄りて来るなり

大門の東西に伸び伸びし
神杉のみどりいまもしたたる

枯れていし樹冠いつしか伸び伸びて
夕日に緑したたるるなり

妙見の大門桜に笛の音の
ひびき渡りて祭りは進む

妙見の桜並木にひびきわたり
明るくわたる笛の音なり

樹冠伸びみどりしたたる神杉の
生の強さを仰ぎ見るなり

かけ踊り長き行列大門の
桜の下に勢揃いせり

かけ踊り長き行列大門の
桜の下に打ち揃いたり

神帰り杉と久しく仰ぎ見る
樹冠のみどり夕日に光る

大門の東西に伸び揃いたる
神杉二本したたるみどり

大門の桜の下に揃いたる
祭りの列は静かに進む

俳句

春秋万華鏡

高橋 義一

春蘭の舌に触れみて春やある

しなやかな首抱きしめん黄水仙

束の間の世を慈しむあだざくら

蕾より鼻擦り寄せしバラが咲く

バラ咲けり君の清楚が狂しきくるほ

シヤクヤクは君の傍かたへに添ふるもの

青葉風生き甲斐天にひいき無し

文楽に泣かぬものかはかなかなや

月の里かさ暈さして夢降るごとし

鈴虫はねの翅に抱かれて寝ねにけり

天高く神輿みこしが神酒にあふらるる

白山の神やスーパーを紅葉狩り

おや獅子座ほしぐす星屑噴いて吼えにけり

新樹光

本 田 村 人

二月ゆく日捲り無精つづきにて

亡父の歳こえて幾年春田打つ

春耕や名寄池尻十五番

手の届くところに水を夏の夜

飼猫の看取りへ寒の戻りかな

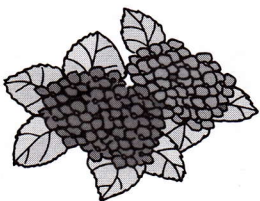
空色の緑ゆるがす鴉駆除

田草取る明治九年の地券證

新樹光仰ぐ水口秋声碑

右めうけん左は讀めず梅雨しとど

義民藤吉墓石の由緒梅雨の縞



平成15年度 事業報告

- 4月10日(木) 郡上郡文化財保護協議会第1回理事會
 - 21日(月) 執行部会(役員改選、年間事業計画等について)
 - 「文化財やまと」編集委員会、原稿依頼について
 - 文化財収蔵展示館建設促進委員会(町民学習課、執行部合同)
 - 23日(水) 執行部会、役員改選・役員会提出議題について
 - 5月6日(火) 「文化財やまと」編集委員会
 - 10日(土) 監査会、役員会 平成14年度会務・決算報告について、平成15年度事業計画・予算案について、平成15年度総会について、会費徴収について
 - 平成15年度総会
 - 6月11日(木) 会報「文化財やまと」発行(発行部数350部)
 - 22日(日) 大和町の文化財視察(午前・町民センター、午後・ワールドミュージアム)
 - 7月7日(月) 執行部会
 - 16日(水) 役員会(収蔵展示館、東氏館跡等奉仕活動、各部会、等々)
 - 25日(金) 郡上郡文化財保護協議会町村文化財めぐり(美並村) 46名参加
 - 27日(日) 東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃、43名参加
 - 8月7日(水) 薪能協賛
 - 29日(金) 和良村歴史民俗資料館視察(展示方法の研究のため) 執行部中心7名
 - 9月10日(水) 第2回役員会(文化財収蔵展示館の陳列について)
 - 10月6日(月) 研修部会
 - 8日(水) 執行部会
 - 20日(月) 第3回役員会(秋季日帰り研修・文化財収蔵展示館等について)
 - 11月12日(水) 秋季日帰り研修(飛騨路の文化財を訪ねる)参加者44名
 - 24日(月) 執行部・事業部会合同会議(文化財展示協力について)
 - 12月1日(月) 執行部会(年表の寄贈・年末役員会等について)
 - 18日(水) 文化財収蔵展示館落成式、開館
 - 20日(土) 第4回(年末)役員会、事業・会計中間報告、懇親会その他
 - 1月22日(木) 執行部会
 - 6日(金) 研修部会(宿泊研修について)
 - 2月16日(月) 研修部会(15年度1泊研修について)
 - 19日(木) 郡上郡文化財保護協議会第2回理事會
 - 20日(金) 第5回役員会(宿泊研修について)
 - 3月17日(水) 第6回役員会、15年度1泊研修について
 - 4月12日(月) 平成15年度宿泊研修の実施(親鸞聖人の遺跡を訪ねる)参加者34名
- 会員物故者 鷲見 清氏、歳等堅正氏。謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成16年度 事業計画

- 4月21日(月) 執行部会(年間事業計画等について)
- 5月27日(木) 「文化財やまと」編集委員会、原稿依頼について
- 29日(土) 執行部会、役員会提出議題について
- 6月10日(木) 「文化財やまと」編集委員会
- 29日(火) 監査会、役員会
- 同日 平成14年度会務・決算報告について、平成16年度事業計画・予算案について、平成16年度総会について、会費徴収について
- 29日(火) 平成16年度総会
- 同日 会報「文化財やまと」発行(発行部数400部)
- 7月 郡上市文化財保護協議会第1回理事會
- 同日 執行部会
- 25日(日) 郡上市文化財保護協議会町村文化財めぐり
- 8月7日(土) 東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃
- 9月 七日祭・薪能
- 同日 第2回役員会
- 同日 研修部会
- 同日 執行部会
- 同日 役員会(秋季日帰り研修・文化財収蔵展示館等について)
- 同日 町民祭
- 11月 秋季日帰り研修
- 12月 第3回役員会、事業・会計中間報告、懇親会その他
- 1月 郡上市文化財保護協議会第2回理事會
- 1月 執行部会
- 2月 研修部会(16年度1泊研修について)
- 2月 研修部会(16年度1泊研修について)
- 3月 「文化財ぐじょう」の編集・発行(本会担当)
- 3月 第4回役員会、16年度1泊研修、役員改選について
- 3月 1泊研修の実施

◎以上のほか、本会の活動に合致した展覧会・発表会等には、協議の上でできるだけ参加する。

會員名簿(順不同)

■剣

山下運平(顧問) 八八―二四〇六

旗 勝美(顧問) 八八―二〇三一

村瀬喜八 八八―二二二八

河合俊次(理事) 八八―二二四六

畑中澄子 八八―二五〇七

畑中定夫 八八―二一六八

小池久江(理事) 八八―二五七六

山下ふみえ 八八―三二二七

加藤正恵 八八―二一〇七

高橋 明 八八―二四八八

加藤文蔵 八八―二八〇二

佐藤光一(会長) 八八―三二〇一

佐藤八重子 八八―三二〇一

田中和久 八八―二二〇〇

高橋義一(顧問) 八八―三七九二

高橋叙子 八八―三七九二

河合 恒 八八―二三三八

河合芳英 八八―二三〇四

加藤小弐 八八―二三二九

森前とし子(理事) 八八―三四七九

新蔵 守 八八―二三七五

岩崎扶美子 八八―三五二一

河合利雄(理事) 八八―三五二〇

河合美弥子 八八―三五二〇

山内 博 八八―三八八六

山内悦子 八八―三八八六

河合善吉 八八―二一〇三

小池祐二 八八―四〇六四

小池圭子 八八―四〇六四

林 千里 八八―三三三三

山田峰夫 八八―一〇七〇

佐藤公子 八八―二一六一

山下妙子 八八―二四〇五

■大間見

村井正蔵 八八―二三三三

大野一道(理事) 八八―二三三〇

大野紀子 八八―二三三〇

野田英志 八八―二二八五

清水一作 八八―三〇八六

池田充彦(理事) 八八―三〇九〇

小野江 勉 八八―二七二五

松井賢雄(理事) 八八―三九九一

藤代順行 八八―三〇六〇

玉木吉郎 八八―三四一五

小野木花子 八八―二七四七

青木ユリ子 八八―三四七七

日置敏明 八八―三一〇五

■小間見

田代善一(理事) 八八―三九六五

■万場

畑中真澄 八八―二四四一

石神堯生 八八―二四一三

稲葉和巳 八八―二五〇三

黒岩さくゑ 八八―二四六〇

伸雄 八八―二五三二

明代 八八―二五三二

三島秋男 八八―二四六一

桑田和子 八八―二四一九

桑田渥見 八八―二四四六

桑田アサ子 八八―二四三九

桑田信夫 八八―二四一八

黒岩弘美 八八―二四五八

井俣赫美 八八―二七五八

井俣初枝 八八―二七五八

青地正男(理事) 八八―二四四七

大井静子 八八―二三三八

大井正明(書記) 八八―二八九四

大井次子 八八―二八九四

井上妙子 八八―三三〇八

沢原 勝 八八―三三五一〇

沢原美幸 八八―三三五一〇

山田武司 八八―二四七五

山田和美 八八―三六三一

旗 清子(理事) 八八―四一七〇

山田敬子 八八―三九一七

大井ともゑ 八八―二八九三

三輪孝子 八八―二七八二

桑田守夫 八八―二五一四

大中弘美 八八―三三〇六

大中春子 八八―三三〇六

鷺見 務 八八―二六五一

鷺見三津子 八八―二六五一

■徳永

鷺見おと 八八―二一八九

矢野原幸子(理事) 八八―二〇七七

水野志づ子 八八―二六一〇

山内孝一(理事) 八八―二六六一

山内喜久子 八八―二六一六

土松新逸(会長) 八八―二七三一

遠藤賢逸 八八―二二二一

遠藤富貴子 八八―二二二一

渡辺明夫(理事) 八八―二六九五

渡辺文子 八八―二六九五

木島三郎 八八―三五九〇

矢野原吉夫 八八―二一三九

村瀬弥一 八八―二六〇二

■河辺

清水幸江 八八―二〇一九

清水美佐子 八八―二〇二一

前田 孝(理事) 八八―二一〇一

岩谷千代子 八八―二一一一

尾藤 清 八八―二一四七

尾藤元子(理事) 八八―二一四七

岩谷敏子 八八―二〇六三

■神路

森 忠敬 八八―二〇八三

白田宝徳 八八―三三三〇

羽生 清 八八―二二七一

山田真人(会計) 八八―二一一四

山田正代 八八―二一一四

■牧

金子政子 八八―三四二六

滝日準一(理事) 八八―二七〇五

滝日美代子 八八―二七〇五

栗飯原常人 八八―二三六二

日置貞一 八八―二六六二

土松貞二 八八―三九八〇

日置 昇 八八―三六三六

遠藤千津子 八八―三六三七

遠藤光平 八八―三九八一

遠藤周一 八八―二八九〇

滝日義一(理事) 八八―三〇六二

滝日和子 八八―三〇六二

滝日 治 八八―三四〇六

滝日敬子 八八―三四〇六

田口勇治(監事) 八八―三九五〇

加藤一男 八八―二八七〇

日置元衛 八八―三四一七

粥川 溜 八八―三三七八

本田欽一(理事) 八八―三一六〇

野田嘉明 八八―三〇四三

尾藤佐紀子 八八―二三五三

遠藤甲子男 八八―三九三五

早瀬ふみ子 八八―三三二七

日置康夫 八八―三七八八

国居利男 八八―三四八二

日置清子 八八―三六三六

■栗巢

島崎増造(監事) 八八―二二三六

増田洋子 八八―四〇四一

寛 政之助(理事) 八八―四〇三一

中山周左工門 八八―二七二八

野田恵光 八八―四〇二七

■古道

細川 優(理事) 八八―二八六一

清水克巳 八八―二八六一



歳藤堅雄 八八一三九七九
 ■名血部
 有代真一(副査) 八八一三七七一
 有代紀子 八八一三七九一
 有代和夫 八八一二二〇一
 森下正則 八八一三四一三
 佐尾チドリ(理事) 八八一三五四四
 ■島
 森藤雅毅(理事) 八八一二六八四
 山田長次 八八一三六四八
 森 数雄 八八一二五五四
 田中 篤 八八一二七九二
 奥田昌明 八八一二五二〇
 直井篤美 八八一二六二二
 雉野尚子(理事) 八八一三五六四
 遠藤利雄(理事) 八八一三五二六
 石井敏子 八八一二五〇二
 本川喜代士 八八一三三三三
 本川清子 八八一三三三三

平成15年度 決算書

(収入の部) △印は予算額に対しての増加額 (単位:円)

項目	予算額	決算額	増減	摘要
前年度繰越金	101,676	101,676	0	
会費	1,482,000	1,958,000	△476,000	
- 会費	303,000	297,000	6,000	正会員 2,000×138名 家族会員 1,000×21名
- 特別会費	1,155,000	1,646,000	△491,000	日帰研修高山 6,500×44名 2泊研修新潟 40,000×34名
- 役員研修費	24,000	15,000	9,000	1,000×9名+6,000(寄付)
助成金	100,000	100,000	0	大和町より
寄付金	10,000	29,000	△19,000	山下・小池・土松他
雑収入	324	246	78	預金利息外
合計	1,694,000	2,188,922	△494,922	

平成16年度 予算(案)

(収入の部) △印は予算額に対しての増加額 (単位:円)

項目	前年度実績	予算額	増減	摘要
前年度繰越金	101,676	29,305	72,371	
会費	1,958,000	1,603,000	355,000	
- 会費	297,000	303,000	△6,000	正会員 2,000×140名 家族会員 1,000×23名
- 特別会費	1,646,000	1,280,000	366,000	日帰研修 6,000×40名 1泊研修 26,000×40名
- 役員研修費	15,000	20,000	△5,000	
助成金	100,000	100,000	0	郡上市より
寄付金	29,000	10,000	19,000	
雑収入	246	695	△449	
合計	2,188,922	1,743,000	445,922	

(支出の部) (単位:円)

項目	予算額	決算額	増減	摘要
会議費	35,000	10,980	24,020	
- 総会費	15,000	6,780	8,220	講師謝礼(5,000円)お茶(1,780円)
- 会議費	20,000	4,200	15,800	1,000円×4名(消費税200円)
事業費	1,470,000	2,050,897	△580,897	
- 研修費	1,290,000	1,772,297	△482,297	文化財視察 21,000円 1泊研修高山 337,145円 宿泊研修(新潟2泊3日) 1,368,744円 郡内文化財巡回(美並村) 2,688円 和良村資料館視察 6,090円 役員研修費 36,630円
- 会報発行費	100,000	54,600	45,400	350部
- 事業活動費	80,000	224,000	△144,000	文化財収蔵展示館歴史年表寄附
事務局費	20,000	1,740	18,260	
- 消耗品費	5,000	440	4,560	ゴム印
- 通信費	5,000	1,300	3,700	会議通知など
- 旅費	10,000	0	10,000	
会費(県・郡)	84,000	84,000	0	県 64,000円 郡 20,000円
積立金	60,000	0	60,000	
予備費	25,000	12,000	13,000	大和町の文化財助成(1,000円×10冊) 明建神社7日祭り(2,000円)
合計	1,694,000	2,159,617	△465,617	

(支出の部) (単位:円)

項目	前年度実績	予算額	増減	摘要
会議費	10,980	40,000	△29,020	
- 総会費	6,780	20,000	△13,220	
- 会議費	4,200	20,000	△15,800	
事業費	2,050,897	1,514,000	536,297	
- 研修費	1,772,297	1,400,000	372,297	日帰研修 270,000円 宿泊研修 1,100,000円 役員研修費 30,000円
- 会報発行費	54,000	90,000	△36,000	400部
- 事業活動費	224,000	24,000	200,000	
事務局費	1,740	20,000	△18,260	
- 消耗品費	440	5,000	△4,560	
- 通信費	1,300	5,000	△3,700	
- 旅費	0	10,000	△10,000	
会費(県・郡)	84,000	84,000	0	県 64,000円 郡 20,000円
積立金	0	60,000	△60,000	
予備費	12,000	25,000	△13,000	
合計	2,159,617	1,743,000	416,017	

収入 2,188,922 - 支出 2,159,617 = 29,305円

(次年度へ繰り越し)

積立金 360,000円(平成7~12年) + 150,000円(平成14年) = 510,000円

平成15年度の歳入・歳出経理について監査を行った結果、適正に処理されておりました。

平成16年 6月10日

監事 田口勇次 氏

監事 島崎増造 氏

● 編集後記 ●

◇第29号をお届けします。今年度は本協会の悲願でありました文化財収蔵展示館が完成した大和町の文化を一層理解するための拠点ができました。12月18日オープンの日後からは会員に無料開放され、多くの方々が見学されました。今後は収蔵展示館の持つ意義を広めていくことも重要な活動の一つになると思います。

◇文化の語源は、古代ローマ人の言語であるラテン語の「耕す」からきています。洋の東西を問わず、人は土地を耕しながら自分たちの歴史を創造してきました。結果としての物重視の社会にあって、心を耕す場所がすぐ近くにあることを再認識したいものです。

◇豊富な経験や実践を体系的に整理して得た正しい知識は大きな力になると言うことを、イギリスの哲学者ベークンは「知は力なり」と言っています。数もまた力になります。多くの会員の協力の下に、さらなる発展を願いたいと思います。(ま)